

1 事業評価報告

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始 時期	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績									事業実施主体の評価	
										獣種	被害金額			被害面積			処理頭数			
											目標値 千円	実績値 千円	達成率 %	目標値 ha	実績値 ha	達成率 %	目標値 頭	実績値 頭		達成率 %
呉市有害鳥獣 被害防止対策 協議会	呉市内 全域	令和3年度	イノシシ シカ カワウ	個体数の調整	R3 箱わな(16基) 電気止め刺し器(1本) 捕獲活動(1回)	呉市有害鳥獣 被害防止対策 協議会	令和3年度	100%	令和5年6月、7月に呉市で豚熱を確認し、イノシシの捕獲数が30000頭を下回った。しかし、シカの捕獲数は200頭を超えた。捕獲数の減少は豚熱の影響であるが個体数の調整が図られていると考えられる。	イノシシ	53,263	15,903	30%	1,828	510	28%	4,000	2,854	71%	これまで捕獲を中心とした対策で被害の軽減を行ってきたところ、豚熱の影響でイノシシが減り、令和5年度は農作物の被害は減少した。しかし、数年で豚熱の影響から回復する可能性があるため、今後の農作物被害及び生活環境被害の軽減に向けて、地域を主体とした「総合防除」「防除」「環境改善」「捕獲」の一体的な取組を柱として進めていく。
		令和4年度			R4 箱わな(15基) 捕獲活動(1回)		令和4年度			シカ	1,211	633	52%	90	47	52%	100	220	220%	
		令和5年度			R5 箱わな(15基) 捕獲活動(1回)		令和5年度			カワウ	21,168	21,600	102%	-	-	-	100	1	1%	
広島ゆたか農業協同組合(呉市有害鳥獣被害防止対策協議会)	沖友地区	令和5年度	イノシシ		R5 箱わな(6基) ICT監視システム(2基)	広島ゆたか農業協同組合	令和5年度			イノシシ										

注1)被害金額及び被害面積の目標欄については、対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載してください。

注2)達成率の算出方法については「実績値(＝基準年値－実績値)／目標値(＝基準年値－目標値)」であるとして算出してください。

注3)被害防止計画の目標と実績の処理頭数の欄については、「ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組(販売拡大支援)」のメニューを活用した場合に記載してください。

2 第三者の意見

コメント: 広島大学大学院統合生命科学研究科 名誉教授 谷田 創
呉市による有害鳥獣被害防止対策の一環としての個体数調整は、箱罠の設置及びその他の捕獲活動によって、イノシシについては一定の効果をあげたと考えられるが、シカの捕獲頭数が上昇していることが懸念される。谷田らのこれまでの呉市における野外調査においても、近年シカの沿岸部及び島嶼部への進出が認められているので、イノシシとともにシカの個体数調整についても今後積極的に検討する必要がある。イノシシは、性成熟が早く、一度あたりの産子数が3頭から5頭と多産であり、近年は夏以降にも繁殖が確認されていることから、今後、特に高齢化が進む島嶼部における有効な有害鳥獣対策を図ることが望まれる。また、報告書で述べられている呉市内における豚熱の発生については、広範囲に移動するイノシシの習性を考えると、呉市のみならず周辺地域の畜産業(養豚)にも多大な影響を与える危険性があるので、注意が必要である。呉市ではイノシシ、シカ以外の野生動物の被害として、ヌートリアも目撃されるようになってきている。ヌートリアも多産であるため、目撃情報のあった周辺地域では、すでにかかなりの頭数のヌートリアが生息していると考えられるので、早い段階で個体数調整を実施することが必要である。